



本当に色、ほい

野良猫
ロク
ク

ニ
ら
い
ら
と
い
ら
ら
は
と
し

Lily Franky

'70年代初頭、窮屈でシラケた時代に喝を入れるべく、若いエネルギーに溢れた映画が誕生した!!
あれから30年、ヒネた野良猫たちが暴れまくるヒップでキッチュなバイオレンスが今、鮮烈に甦る!!!!

女番長 野良猫ロック

(70年、81分)
監督:長谷部安春 脚本:永原秀一
出演:和田アキ子、梶芽衣子、藤竜也、和田浩治

実際に、三宮で撮っていた和田アキ子が、フラッと新宿に来てしまった、そんな、妙なリアルさを持つズベ公映画、野良猫ロック。バギーカー、750ccバイク、革ジャン、集団バイオレンスなどが、60年代末から70年代にかけての強烈なエネルギーを感じさせる。今とは違う新宿西口の風景や、当時流行った、オックス、モップス、アンドレ・カンドレ(井上陽水)が新鮮。これを見ずに野良猫は語れない。見所満載なシリーズ第1作。

野良猫ロック セックス・ハンター

(70年、86分)
監督:長谷部安春 脚本:大和屋竺、藤井鷹史
主演:梶芽衣子、安岡力也、藤竜也、ゴールデンハーフ

「この街は俺の遊び場だ」トラウマを抱えた性的不能者バロン(藤)が狂気に取り付かれたようにハーフ(混血児)狩りを繰り返し、店を襲撃する。破天荒なストーリーに加え、マリファナ・パーティー、乱交パーティー、レイプ、リンチ、放火など、かなりヤバイシーンがオンパレードのアーキーなバイオレンス。長谷部安春の演出も、映画に引っ張られたかのような快調なテンポと切れ味鋭いアクションの連続で、シリーズ最高傑作の呼び声も高い。

野良猫ロック 暴走集団'71

(71年、87分)
監督:藤田敏八 脚本:永原秀一、浅井達也
主演:梶芽衣子、原田芳雄、藤竜也、地井武男、堺正章

野良猫ロックの最終章。保守的な選挙戦を絡めて、街の大ボスの親衛隊と、「反体制」をモットーに掲げる野良猫たちの対決がヤマ場に。正月映画にふさわしく、堺正章、ザ・スパイダース、モップスら豪華キャストが揃った。ちなみに大ボスを演じるのはあの「七人の侍」の稲葉義男。野良猫たちの暴走の果てに見えるものは何か。

野良猫ロック ワイルド・ジャンボ

(70年、85分)
監督:藤田敏八 脚本:永原秀一、藤田敏八
主演:梶芽衣子、范文雀、地井武男、藤竜也、和田アキ子

タキ(地井)率いる非行集団「ベリカンクラブ」は、現金強奪を企む。「俺たちはヒマなんだ」と吐き捨てる最高にワイルドな野良猫6匹が、ウエットスーツにアクアラングを身につけ潜水したまま現金を運ぶ。スリルとパンチの効いた青春アクション。ピキニスタイルがキマる梶芽衣子、機関銃をぶっ放すニヒルな地井武男に加え、にしきのおきらも出演。そして忘れちゃいけない和田アキ子。ソウルな歌を聴かせてくれる。

野良猫ロック マシン・アニマル

(70年、82分)
監督:長谷部安春 脚本:中西隆三
主演:梶芽衣子、藤竜也、范文雀、高野沙里、青山ミチ、太田とも子

舞台は横浜。ノボ(藤)はLSDを売った金で、スウェーデンに逃亡しようとするが、そのLSDをめぐる対立が起きる。LSD、国外脱出、フリーセックスなど、欲望に充ちた世界が展開。ロックのリズムに酔った野良猫たちがバイクにまたがり、牡猫を蹴散らし、LSDで幻覚の世界に陶酔していく。

『Pinky Violence 野良猫ロック』 6/17(土)~7/14(金)

連日8:50pmより(6/24、7/5、日曜は休映)
料金 1,200円均一
(3回券 3,000円 劇場窓口にて販売中)

Special Program

「番格ロック」 7/12(水)~14(金)
1973 東映 監督:内藤誠 脚本:大和屋竺、山本英明
矢沢永吉率いる“キャロル”が登場する
幻のピンクバイオレンス
ついにリバイバル!!

女番長	野良猫ロック	6/17(土)~21(水)
野良猫ロック	ワイルド・ジャンボ	6/22(木)~27(火)
//	セックス・ハンター	6/28(水)~7/1(土)
//	マシン・アニマル	7/3(月)~7(金)
//	暴走集団'71	7/8(土)~11(火)

シネマアルゴ梅田

梅新・東映会館南となり tel.06 6343 1691